

日本国憲法(抄)

第十四条すべての国民は、法の下に平等であつて、人権信条、性別、社会的身分又は、門地により、政治的又は、社会的関係において差別されない

こやま地区 同推協だより

— 第9号 —

2002年(平成14年)1月

編集・発行

湖山地区同和教育推進協議会

〒680-0941 鳥取市湖山町北6丁目334

TEL・FAX (0857) 28-1017

— 思いやる心が築く新世紀 —



平成13年6月21日 湖山地区人権啓発学習会(湖山地区公民館)

人権教育及び人権啓発推進に関する法律が昨年制定され、国の責務が明記されたが私たちの鳥取県でも平成八年八月に「人権尊重社会づくり条例」が制定された。この内容を改めて確認してみると前文ですべての人間は生まれながらに自由であり、かつ尊厳及び権利について平等であり、人間として尊重され、基本的人権の享有が保障されなければならないとし、県内に暮らすすべての者は真に人権が尊重される社会とするため、この条例を制定すると明言している。

そして第一条で同和問題、女性の人権、障害者の人権への取り組みの推進。第二条県の責務。第三条市町村の責務。第四条県内に暮らすすべての者の責務。第五条人権施策基本方針(七項目)。第六条人権尊重社会づくり協議会の設置。第七条協議会の組織委員二十六名と定めている。条例は地方自治体がつくることの出来る最高の法律、自治体法でこれ以上のもはない取り決めである。今日の人権の実情を見るとき、もう一度この条例の原点に帰り差別のない明るい社会づくりを推進して行きたいと痛感している。

「鳥取県人権尊重社会づくり条例」 再確認する

湖山地区同推協会長 村上宏晴

世界人権宣言に思う

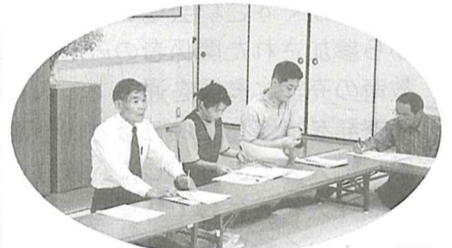
湖山地区自治会長 上山金次郎

二〇〇二年は、世界人権宣言五十四周年にあたります。世界人権宣言は、人類に大きな犠牲をもたらした。第二次世界大戦を反省して、差別の撤廃と人権の確立こそが恒久平和を築く道であると、一九四八年十二月十日に国連総会で採択されました。それ以来この日を「世界人権の日」と定められています。

更に国連では、一九六五年に人権・民族・門地などに基づく差別を禁じた「人権差別撤廃条約」を採択し、それぞれの国で撤廃をする為の措置をするよう求められています。しかしながら、世界の現状を見たとき、テロ活動によって多くの人命が奪われたり、国内による民族紛争が起きたり、イデオロギーや宗教の違いによっての人権侵害事件があつてを絶ちません。一方、私達の足元での、家庭内や地域社会(学校生活)の生活環境の



9/4 第2回人権啓発学習会(現地学習・下味野前田俊政碑前にて)



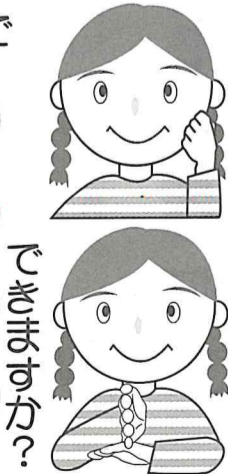
下味野隣保館にて座談会



障害者が自由に行動できる社会や環境作りを目指そう!!

手話で

あいさつ



おはようございます

- ①右手を握って、ほっぺたにあてる。
- ②ほっぺたをなぞるように、あごまで下げる。
- ③胸の前で両手の人差し指を立てて、人差し指を曲げる。

ありがとう

- ①左手は胸の高さで手のひらを下に向ける。右手は左手の甲に垂直に置く。
- ②右手を上上げる。

- 【総会】
- 5/1 湖山地区同和教育推進協議会総会
- 【小地域座談会】
- 南2丁目南地区ほか8地区
- 【各団体研修会】
- 湖山小学校同和教育研修会
- 湖東中学校同和教育研修会
- 6/21 第一回人権啓発学習会(湖山地区公民館)
- 9/4 第二回人権啓発学習会(現地学習、下味野)
- 11/28 第三回人権啓発学習会(湖山地区公民館)
- 2/中旬(予定) 区長会研修会
- 【地区同推協関連】
- 11/7 地区同推協ブロック計画訪問(中ノ郷地区同推協)
- 【その他各種研修会】
- 8/1 部落解放鳥取市研究集会
- 9/28 湖東ブロック研究集会(中ノ郷地区同推協)
- 11/24~26 第53回全国人権同和教育研究大会
- 【推進員研修会】
- 1/18 ブロック推進員研修会(中ノ郷地区同推協)
- 6/6~7 研修会(鳥取市/6月7月10月11月)

平成13年度

湖山地区同和教育推進協議会事業報告

歴史を調べて

“けがれ”考 - 女性の人権 -

仏教および陰陽道によるケガレ観

その原因は、6世紀に朝鮮半島の百済から伝来された仏教によるところが非常に大きいのです。仏教による「殺生禁止」の思想と、これも古代中国から伝わった陰陽道(オンミョウドウ)という呪術の「禁忌・触穢」思想とあいまって、ケガレ観が強化されたのです。その結果、日常的に「ケガレ」に接している人を差別するようになったと言われます。日常的に「ケガレ」に接している人とは、人間や家畜等の死体に接している人、出血・出産する人のことで、死に関しては「黒不浄」、血に関しては「赤不浄」とよんで、忌避・差別したのです。

このように仏教は、差別を生み出し、助長・拡大する大きな役割を持ち、民衆の間に広まってきました。この影響は現在も続き、その顕著なものとして差別戒名、「えた寺」ばかりをまとめた「部落組」という末寺組織として、つい最近まで残っていました。しかし、宗教界は部落解放同盟の指摘によってこれを悔い改め、差別の撤廃につとめています。陰陽道については、「大安・仏滅」等の六曜として現在も根強く残り、迷信など根拠のないいわれの一つとして、差別意識を支える土壌としての役割があります。

など女性差別の意識が世論の常識として定着していつた。こうして長い間、男尊女卑の思想が日本社会を支配してきたのである。

月のさわり十一日、産した人十日、産み流し三月までは七日、四月からは三十日死穢と同じ三転まで忌むべし

そして室町時代以降、産穢に限らず忌ごもりの日数がどんどん長くなった。産穢の場合妊娠となつて九十日以後から産忌が始まり、出産後七日間、月経が常態になる以前の六十日、合計すれば約五カ月になる。十四世紀に入ると禅宗の僧により国内に広められた血盆経という経文の中に「女人はけがれを広めた罪で血の池地獄に墮ちて苦しむを受け」と更に血盆経和讃の中で「女人悪業ふかきゆえ月に七日の月やくと産するときは大悪血神や仏をけがすゆえ、おのづと罰を受けるなり」など、女性蔑視の思想が公然と言われるようになった。また、十五世紀には京都祇園社の服忌令に

忌むべきは人の死三十日、産は七日。六畜の死は五日、産は三日、獣肉を食へば三日

けがれ意識が国家レベルで穢に触れることを忌みこれを法制化したのが平安初期、醍醐天皇の時代(九二七年)の延喜式である。

参加して学びあい 気づきあおう!!

第53回 全国人権・同和教育研究大会鳥取大会

11月24日から26日の3日間、鳥取県において全国人権・同和教育研究大会が開催された。大会第1日目の開会全体会は鳥取県民体育館をメイン会場にして行われた。第1日の午後、および第2日は「展示と交流」「特別分科会」を含む35分科会・分散会で熱心な交流・討議が行われた。第3日の閉会全体会では分科会総括、及び議長総括が行われ、大会アピールを採択して3日間の大会の幕を閉じた。



「全体会について」

湖山地区同推推進員 鳥羽登喜男
とにかくすごい会場いっぱいの人、各県から参加された関係者のみなさんは、同和教育の充実と発展を通して、人権教育、人権啓発を構築していこうという意気込みを感じた大会でありました。挨拶の中で委員長は「人を人として尊重し、違いを豊かさとしていく考え方を私たち一人ひとりが身につけなければ安心して自由に暮らせる社会の確立は望めません」とありますように、私たちの課題として、地域座談会を通して推進をはかりたい。



「大会に参加して」

湖山地区同推推進員 林 泰
第53回全国人権・同和教育研究大会が11月24日から3日間、鳥取・倉吉・羽合・三朝・東郷の5市町で開催されました。大会には全国各地から2万人の会員が集い、九分科会・特別分科会など35会場に分かれて研究討議がなされました。全体会での倉吉市下吉真二さんの特別報告「人は変わるんだ」は差別の現実と多くの人との出会いによって差別に立ち向かっていく現在の自分があること、婚約者の父親が「親戚の中で反対があった場合は俺が責任をもって説得する。心配するな。」と励まされたという体験を発表され、参会者の共感と感動の大

きな拍手となって全国へ伝えられました。21世紀は「人権と共生の世紀」といわれます。今一度、自分自身をそして身の回りを見直し、みんなで手を取り合って新しい世紀を築いていきたいものです。

「大会に参加して」

湖山地区同推推進員 谷尾 洋介
人種差別の事象を聞きながら、私の過去の在日朝鮮人との関わり合いとオーバーラップした。私の住んでいる「湖山」は国際色豊かな土地柄なので今回の特別分科会での研修を生かし、「各国のタブー」についてもっと勉強し、研修会・講演会等を企画実施していきたいと思いました。

編集後記

昨年は全国人権・同和教育研究大会が鳥取で行われ、大変多くのことを学びました。これからも、地道な活動を継続して、人とのふれあいをたくさん作りたいと思っています。



部落差別と宗教
文 川内 俊彦
絵 貝原 浩
定価 1,200円
出版 現代書館

仏教、神道、キリスト教など、宗教による差別事例を明らかにし、差別に対する被害者側および各宗教の取り組みが記述されている。死後の世界まで差別されている人々の声は重たい。

本の紹介コーナー



編者 ワールド
パイオニア
定価 1,200円
出版 小学館

耳の不自由な人の生活を 知る本

～心の支援とサポート器具～
耳の不自由なひとをサポートする器具の紹介だけでなく、心の支援のあり方も考える。



ホームレス作家
著者 松井 計
定価 1,500円
出版 幻冬社

妻子を福祉施設に預けて自らは路上生活者となった作家の自省の記。再生を誓う決死のノンフィクション。

